資産運用こぼれ話
ご長寿企業の教え

寄稿: 岡本 和久

日本にはご長寿企業が非常に多いといいます。田久保善彦さんの「創業 300 年の長寿企業はなぜ栄え続けるのか」によると 300 年以上の歴史があり、50 億円以上の売り上げがある企業が全体で 69 社あるそうです。世界的にも特出しており「三代、100 年潰れない会社のルール」(後藤俊夫著、プレジデント社)によれば 2009 年時点の世界の創業 200 年企業のシェアは日本がトップで 43%、二位のドイツが 22%、三位のフランスが 5%だそうです。

ヨーロッパの長寿企業団体であるエノキアン協会には日本からも 5 社が加盟しています。それらは、石川県の旅館、法師、和菓子の虎屋と赤福、酒造業の月桂冠、農具や工匠具、家庭用品、刀剣などを扱ってきた岡谷鋼機などです。要するに生活に密着したいつまでも需要の廃れない企業が残っているのです。もちろん、当時、同業者はいたと思いますがこれらの企業が生き残っているのはどのような理由によるのでしょうか。

私はご長寿の要因は成長を支える資金繰り、コアコンピテンスとなる確固たる技術を持ちそれを時代のニーズに合わせて使ってゆく弾力性、リーダーシップ、組織形態、そして後継者選びといった人と組織に関連した要素、最後が企業としての価値観、使命感、ビジョン、ミッション、三方よしの精神の伝承など企業の隅々に浸透した文化があげられるのではないかと思います。

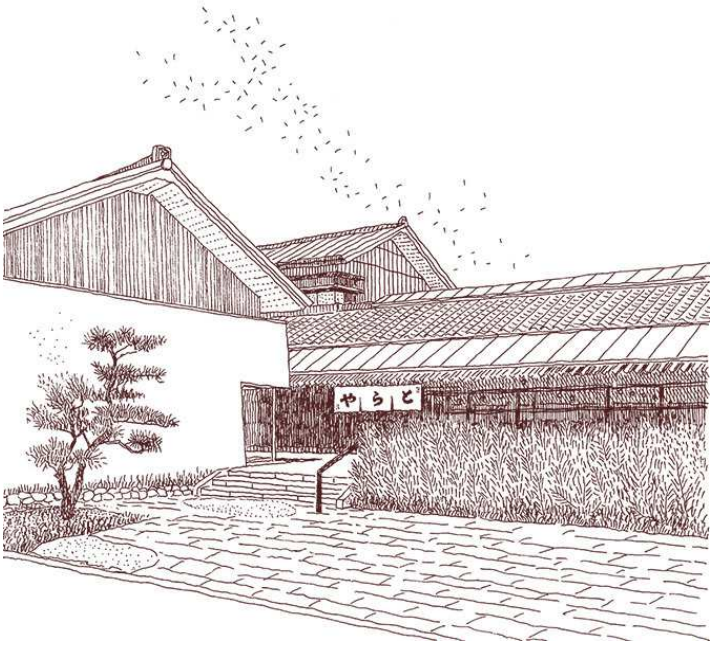
その中で近江商人から始まると言われる三方よしは重要です。売り手よし、買い手よしは単なる WIN-WIN の関係です。それに世間よしが必要であるという考え方こそ現代の経営者が思い起こすべき大切なことだと思います。しかも、その文化が揺るがないものとして長く継承されなければなりません。

そのためには文化をきちんと受け継いでくれる後継者に恵まれなければなりません。この点について 18 世紀末に書かれた「金持商人一枚起請文」の中で近江商人の中井源左衛門は善い人材に恵まれることを祈るのであれば「陰徳善事をなさんよりまったく別儀候わず」と述べています。また、同じ趣旨のことを易経にある「積善の家に余慶あり」という言葉を引用しています。「三方よし」は現代の企業活動にも生きているのではないかと思います。悪事を働かないのはもちろん、良い

Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
発行人:岡本和久、発行:I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
URL: http://www.i-owa.com;E-mail: info@i-owa.com

世の中づくりに真に貢献する企業が長期に成長するのでしょう。この当たり前過ぎることこそ企業の長寿のための条件ではないかと思います。

羊羹の虎屋は室町時代に京都で創業（同社 HP より）



（この文章は資手帖　2018 年 5 月号に寄稿したものに加筆修正をしたものです）

Copyright　ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社